



岡山市広報連絡資料<市長定例記者会見資料>

令和8年1月30日

第41回「坪田譲治文学賞」の受賞作が決定しました

岡山市出身でわが国の児童文学に多大な功績をのこした坪田譲治(岡山市名誉市民)を称える「坪田譲治文学賞」の本年度の受賞作決定について発表します。

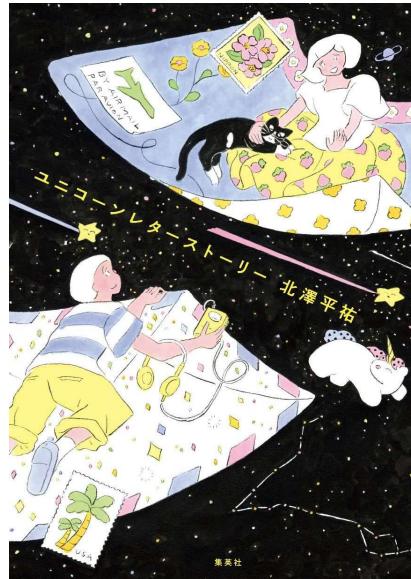
1 受賞作

『ユニコーンレターストーリー』(発行:ホーム社／発売:集英社)
北澤 平祐(きたざわ へいすけ) 著

2 選考経過

令和6年9月1日から令和7年8月31日までの1年間に、全国で刊行された小説・児童文学等の中から、小説家・児童文学者等から推薦された157作品について、予備選考会を経て候補作5作品を選定しました。

これらを令和8年1月13日(火)開催の選考委員会において審査し、上記の作品が選ばれました。



3 贈呈式・記念行事

日時 令和8年2月28日(土)14時～15時15分
場所 西川アイプラザ(北区幸町)

4 添付資料

- 資料1 第41回「坪田譲治文学賞」受賞作について
- 資料2 「坪田譲治文学賞」について
- 資料3 「坪田譲治文学賞」受賞作一覧
- 資料4 贈呈式・記念行事について

5 出版社及び受賞者への取材について

- ・受賞者及び出版社への取材を希望される場合は、下記の連絡先へご連絡ください。
ホーム社・担当 高梨(たかなし)
電話:070-1422-1584 メール:takanashi@homesha.co.jp



6 その他

- ・書影データ、書籍が必要な場合は、下記問い合わせ先へご連絡ください。

【問い合わせ先】

岡山市文化振興課 山下・上林 電話番号：086-803-1054 内線3746

第41回「坪田譲治文学賞」受賞作について

(文中敬称略、50音順)

受賞作	『ユニコーンレターストーリー』 発行：ホーム社／発売：集英社
受賞者	北澤 平祐（きたざわ へいすけ）
正賞	賞状及び記念品（メダル『鳥の少年』蛭田二郎作）
副賞	100万円

◆選考経過

令和6年9月1日から令和7年8月31日までの1年間（※）に全国で刊行された小説、児童文学等の中から、小説家・児童文学者等から推薦された157作品について、「大人も子どもも共有できる世界を描いたすぐれた作品」という観点で、予備選考会を経て候補作5作品を選定。

これを、令和8年1月13日（火）開催の第41回坪田譲治文学賞選考委員会（会場：東京都千代田区平河町「ルポール麹町」）で慎重に審査した結果、北澤 平祐著『ユニコーンレターストーリー』が選ばれた。

選考委員は、五木寛之、西本鶴介、森詠、川村湊、阿川佐和子、中脇初枝、森絵都の7名。

※選考の基準日は9月1日（岡山市文学賞条例施行規則第2条）

◆受賞者略歴

北澤 平祐

イラストレーター。California State University of Fullerton（カリフォルニア州立大学フラトン校）にてBFA（Bachelor of Fine Arts/Illustration）、同大学院にて、MA（Master of Arts/Illustration）を取得。アメリカに16年間暮らし、帰国後、イラストレーターとしての活動を開始する。書籍装画、広告、商品パッケージ、プロダクトなど国内外の幅広い分野でイラストを手がける。著書に『ぼくとねこのすれちがい日記』『ひげがながすぎるねこ』『ゆかいようかいノート』等がある。

◆作品の概要

幼なじみのハルカとミチオ。10歳でミチオがアメリカへ引っ越し、湘南とカリフォルニアに暮らすふたりの文通がはじまった。日米の学校や文化の違い、部活やバンド活動のこと、将来への迷い、友人や家族との問題。1990年代～2000年代の社会の変化を背景に、手紙だからこそ伝えられる様々な思いを共有しながら、ふたりは成長していく。やがて高校生になったふたりは、あるプロジェクトに挑戦することに……。そして明かされる、タイトルの「ユニコーン」に込められた意味とは？　ことばはやさしい嘘つき、絵は真実を語る。イラストと手紙文が交錯しながら展開する、かつてない青春小説。

◆受賞者コメント

「ユニコーンレターストーリー」は、絵が文をなぞるのではなく、絵と文があくまでも対等に、絡み合う形で物語を紡いでいる少し変わった作品です。さらに、往復書簡小説であります。個人的には往復書簡絵小説などと呼んでいましたが、はたしてこの作品が小説なのか、絵本なのか、多くの書店員さんたちを悩ませてきたことと思います。そんな中、懐の深い坪田譲治文学賞が今回、文学作品であると定義して下さったおかげで、今後は胸を張ってこれは小説です、文学作品です、と言えるようになりました。深く感謝しております、ありがとうございました。

◆選考委員のコメント 森絵都（小説家）

幼なじみ同士の往復書簡で編まれた『ユニコーンレターストーリー』は、新しい表現スタイルで普遍的な若者の心を炙りだすのに成功した好例と言える。全頁を彩るイラストは遊び心と工夫に満ち、時に変化するコミュニケーションツールも良いスパイクとなっている。とりわけ、手紙を交わす二人が真摯に互いを思いやる姿勢、また終盤に於ける関係性のうねりや意外な結末などが高く評価され、第四十一回坪田譲治文学賞に選ばれた。

「坪田譲治文学賞」について

(文中敬称略)

岡山市出身で、わが国の児童文学に新しい分野を拓いた坪田譲治のすぐれた業績を称えると共に、市民の創作活動を奨励し、市民文化の向上に資することを目的として、昭和59年12月に「坪田譲治文学賞」を制定しました。

◆坪田譲治文学賞

[目的] 岡山市出身の小説家・児童文学作家で、岡山市名誉市民の坪田譲治の文学活動における偉大な業績を称えるとともに、市民の創作活動を奨励し、市民文化の向上に資する。

※坪田譲治（つぼた じょうじ）

明治23年（1890年）3月3日生～昭和57年（1982年）7月7日没

[対象] 9月1日を基準日とし、前1年間に刊行された文学作品（小説、児童文学等）。

[選考] 文学・出版関係者等から推薦された作品について、「大人も子どもも共有できる世界を描いたすぐれた作品」という観点で、予備選考会を経て候補作4～6作品程度を選定。その中から選考委員が最終選考を行い、受賞作を選定する。

[表彰] 正賞 賞状及び記念品（メダル『鳥の少年』蛭田二郎作）

副賞 賞金100万円

[選考委員] 五木寛之、西本鶴介、森詠、川村湊、阿川佐和子、中脇初枝、森絵都

（7名、就任順）

「坪田譲治文学賞」受賞作一覧

回次	年度	作品名	著者名	出版社名
第1回	S60	心映えの記	太田 治子	中央公論社
第2回	S61	ふたつの家のちえ子	今村 葦子	評論社
第3回	S62	ぼくのお姉さん	丘 修三	偕成社
第4回	S63	四万十川ーあつよしの夏	笛山 久三	河出書房新社
第5回	H1	身がわりー母・有吉佐和子との日々	有吉 玉青	新潮社
第6回	H2	おどる牛	川重 茂子	文研出版
第7回	H3	こうばしい日々	江國 香織	あかね書房
第8回	H4	卵洗い	立松 和平	講談社
第9回	H5	半分のふるさとー私が日本にいたときのこと	李 相琴	福音館書店
第10回	H6	オサムの朝	森 詠	集英社
第11回	H7	泣けない魚たち	阿部 夏丸	ブロンズ新社
第12回	H8	ぼくたちの＜日露＞戦争	渡辺 肇	邑書林
第13回	H9	ぼくはきみのおにいさん	角田 光代	河出書房新社
第14回	H10	ナイフ	重松 清	新潮社
第15回	H11	ウメ子	阿川 佐和子	小学館
第16回	H12	ニライカナイの空で	上野 哲也	講談社
第17回	H13	翼はいつまでも	川上 健一	集英社
第18回	H14	麦ふみクーツェ	いしいしんじ	理論社
第19回	H15	人形の旅立ち	長谷川摂子	福音館書店
第20回	H16	ペーターという名のオオカミ	那須田 淳	小峰書店
第21回	H17	ぎぶそん	伊藤 たかみ	ポプラ社
第22回	H18	空をつかむまで	関口 尚	集英社
第23回	H19	しずかな日々	椰月 美智子	講談社
第24回	H20	戸村飯店青春100連発	瀬尾まいこ	理論社
第25回	H21	トーキョー・クロスロード	濱野 京子	ポプラ社
第26回	H22	おれのおばさん	佐川 光晴	集英社
第27回	H23	鉄のしづきがはねる	まはら 三桃	講談社
第28回	H24	きみはいい子	中脇 初枝	ポプラ社
第29回	H25	世界地図の下書き	朝井 リョウ	集英社
第30回	H26	クリオネのしつぽ	長崎 夏海	講談社
第31回	H27	いとの森の家	東 直子	ポプラ社
第32回	H28	Masato	岩城 けい	集英社
第33回	H29	キジムナーkids	上原 正三	現代書館
第34回	H30	ベンギンは空を見上げる	八重野 統摩	東京創元社
第35回	R1	あららのはたけ	村中 李衣	偕成社
第36回	R2	もうひとつの曲がり角	岩瀬 成子	講談社
第37回	R3	旅する練習	乗代 雄介	講談社
第38回	R4	ぼくんちのねこのはなし	いとう みく	ぐもん出版
第39回	R5	成瀬は天下を取りにいく	宮島 未奈	新潮社
第40回	R6	ひみつだけど、話します	堀川 理万子	あかね書房
第41回	R7	ユニコーンレターストーリー	北澤 平祐	ホーム社

第41回「坪田讓治文学賞」贈呈式・記念行事について

1 日 時

令和8年2月28日(土)14時~15時15分

2 会 場

西川アイプラザ 多目的ホール(北区幸町)

3 内容

- ・第41回岡山市文学賞「坪田讓治文学賞」の贈呈式
- ・受賞者 北澤平祐氏と作家 森絵都氏による対談

4 募集人員

250名(先着順)

5 応募方法

参加者を追加募集しています。

岡山市文学賞ウェブサイトから電子申請システムにてお申込みください。

※はがき・電話でのお申込みはできません。



岡山市文学賞ウェブサイト ▶

6 応募締切

令和7年2月11日(水) ※定員に達し次第締め切れます。

7 申込・問い合わせ先

〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1-1

岡山市文化振興課

電話:086-803-1054